

重慶雑感

6月21日から25日まで、重慶に行ってきた。資料収集が主な目的だったが、薄熙来氏失脚後の街の雰囲気も気になるところだった。

到着翌日の22日はおりしも重慶市党代表大会最終日にあたり、張徳江副総理を書記とする新たな指導部が選出された。大会会場は重慶市のランドマーク「人民大礼堂」だったが、その前に広がる人民広場では多くの市民がダンスなどに興じており、緊張感は全くなかった。こののんびりした空気が政治の舞台裏をも支配していたのだろうか。私は厳重な警戒が敷かれているはずの党大会代表用ホテルに足を踏み入れることができた。もっとも、フロントにたどり着く直前、屈強な公安関係者に追い払われたのであるが。



《人民大礼堂にかかる党大会開催を祝う横断幕》



《人民広場の市民》

学生時代に始まる私の中国滞在歴は計15年に及ぶが、今回の旅ではこれまで一度も経験したことのない出来事に遭遇した。それは、重慶市トップの座から引きずり降ろされた人物、つまり薄熙来前書記に対する地元民の評価が極めて高かったことだ。口の悪さでは世界に冠たる中国人。とりわけ、地元指導者に対しては罵詈雑言のオンパレードというのが一般的である。それがかの地では違ったのだ。

私が思うに、世情に通じたタクシー運転手は中国庶民の代弁者だ。重慶滞在中、私は主にタクシーで市内を移動したが、彼らが語る薄熙来評は期せずして一致していた。

ある運転手はこう話した。『打黒』(暴力団取締り)で、重慶の治安は劇的に改善した。若い女性の夜の一人歩きは以前はまずありえなかったが、今では何の心配もない。タクシー運転手を狙った殺傷事件もなくなった。(彼の後部と側面に設置された防護柵を指しながら)取締りが成果をあげ始めてから導入された新しいタクシーにはこんなものは設置されていない。別の運転手は、「薄氏が打ち出した『5つの重慶』、即ち、『住みやすい重慶、交通が便利な重慶、緑が多い重慶、治安がよい重慶、健康重視の重慶』という方針は素晴



《代表の来訪を歓迎します！(大礼堂酒店入口)》

らしい」と、スローガンをそらんじてみせた。そして続けて、「特に緑化の成果は一目瞭然だ。以前の指導者だったら10年かけてもできなかったことを彼は1年でやってのけた」とまくしたてた。

中央指導部の公式見解とは180度異なる地元民の高い薄熙来評価を耳にして、私は思い知らされた。中央と地方。幹部と大衆。中国の実像を正確にとらえるのはいつになっても難しいと。

「薄氏の功績は大きい」とつぶやくと、こんなことを言い始める運転手もいた。「中央は彼を規律違反で解任したが、腐敗という点ではどの幹部も似たり寄ったりだ。私(運転手)の親族が務める国有企業は、営業成績の悪さを理由

に、従業員への給与支払いはストップしているにもかかわらず、幹部はやりたい放題だ。今の共産党の乱れ方は国民党よりひどい。もし、日本が再度中国を侵略したら、自分は直ちに白旗を上げる。今の中国で日本軍に抵抗するような奴はろくな人間ではない。いっそのこと、日本に統治してもらいたいくらいだ!」。

市内では、薄氏が3月まで進めた「打黒」や「唱紅歌」(革命歌を歌おう)を想起させるポスターやスローガンは一切目にしなかった。しかし、国共合作・内戦の重要な舞台であった重慶市内に点在する「紅色基地」(革命跡地)には、猛暑にもかかわらず、多くの観光客がバスを連ねて訪れていた。

名物の火鍋も、嘉陵江の遊覧船から眺める洪崖洞の夜景も、印象深いものだった。だが、私の脳裏に最も強く刻まれたのはあのタクシー運転手たちだ。いつの日か再訪したとき、防護柵は全て撤去されているだろうか。彼らはやはり薄氏を称賛しているのだろうか。



《歌樂山烈士公園》



《重慶名物の火鍋》



《夜の洪崖洞》